

このまちの100年

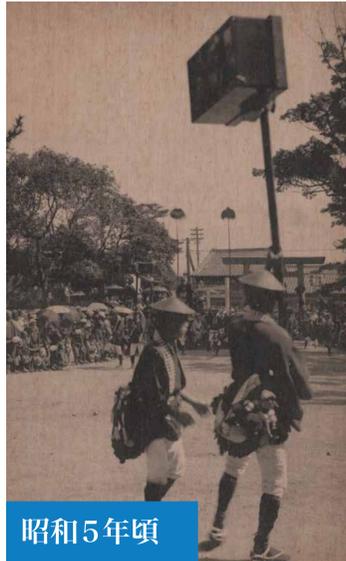
「四日市」

古くより陸海の交通の要衝で、江戸期には東海道の四日市宿としてにぎわいました。明治期以降、商工業が発達し、戦後には石油化学のコンビナートも形成されるなど、日本を代表する工業都市として発展しています。



大正期

四日市の発展のもととなった四日市港。明治19年に誕生した旧燈台が見える



昭和5年頃

諏訪神社の例祭、四日市祭では、比丘尼町保存会による大名行列が再現されてきた



昭和10年頃

明治39年開園の保光苑は、大正5年に諏訪公園に名称を改め、小動物園などが設けられた



昭和10年頃

四日市駅の北側にあった午起海岸は、戦前には海水浴場としてにぎわっていた



昭和30年代

昭和33年に操業を開始した、昭和四日市石油の四日市製油所



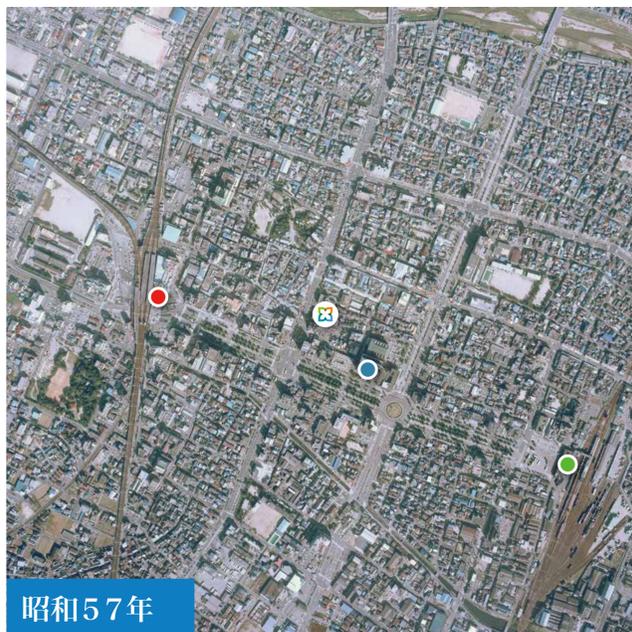
昭和30年代

四日市港の南に広がる石油コンビナート・四日市製油所の大栈橋

上空からみた四日市エリア



昭和23年



昭和57年



平成21年

 : 現在地
 : 四日市市役所  : 四日市駅  : 諏訪駅／近鉄四日市駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロマチ